



斥候術「野帳の活用」

チーム野帳 メンバー

久原	(三島)
大谷	(三島)
穀野	(沼駿)
芦川	(沼駿)
渡邊	(富士)
志賀	(富士)
丸山	(富士宮)
平野	(浜松東)
岡田	(天竜・浜北)

なぜ野帳を選んだのか

- ・ スカウトハンドブック等に詳しい内容が記述されていない。
- ・ スカウトスキルがふんだんに盛り込まれている。
- ・ パトローリングの大切さを学び、活用できる。

新任隊長、副長への手引書

1. 野帳とは？ 何のために作成するのか？
2. 野帳作成に必要な技能
3. 野帳作成方法、手順
4. プログラムへの活用
5. スカウトの成長（教育的効果）
6. 班長へのアドバイス

1. 野帳とは？

野帳とは、土地や道路などの測量をおこなったときに、測った方向、方位、距離と地物その他を記録しておいて、後でこれを見て図面を作ったり、その記録によって後日その現地の状況が自分または他の班員にわかるよう、あるいは略地図を作るために簡潔にまとめておくノートのことをいいます。測量をした年月日、その日の天候、計測にかかった時間、周囲の状況、同行者の氏名も記入しておきます。

野帳は書き手が後でそれを見て、すぐにハイキング中のできごと、コースの状況などがわかるものであれば形式は問いません。

何のために作成するのか？

現地の記録を記録して、報告書を作成するときの資料とすることです。しかし、それだけではなく、その地域の暮らしや美しい自然などを実際に自分の足で歩き、目で見て体験することが大事です。

2. 野帳作成に必要な技能とテクニック

① コンパスワーク 【BSHB92P～】・【地図とコンパス22P～】

・方位角を正しく読む

進路のみではなく、左右の目印になる物の方位角を正しく記録するために必要な技能となる。シルバコンパスの技能は、ハンドブック等に詳しく記述があります。

技能以前に、シルバコンパスの各部の名称は、野帳や地図作製をスカウトに指導する際に必要となるので省くことのできない知識と言えます。

また、当然のことだが0°は北90°は東という最低でも16方位の感覚があると、道に迷ったり、南北を反対に計測することがなくなります。

・正しい姿勢

コンパスワークで重要なことは、正しい姿勢でコンパスを扱うこと。

「胸のあたりに水平にかまえて進行線をまっすぐ自分の前方に向ける。」ことを繰り返し訓練してください。

・身に付けている金属製品、携帯電話、デジカメ等にも影響が出る

磁石に影響のするものは携行する場合注意が必要です。方位角がずれてしまうという知識をスカウトに伝えてください。

- ・ クロスベアリング 【地図とコンパス 3 5 P】

ハイキングの途中で自分の現在地がどこであるか確認するためにクロスベアリング（2点確認法）を用います。

② 計測

- ・ 単歩と複歩 【計測 1 6 P】

2歩を1と数える複歩で計測しましょう。毎回利き足から歩き出す歩測より正確になります。年齢や身長によるが、可能であれば2歩（複歩で1）が1. 5mになるように訓練すると、地図を描く際に計算が容易になります。また、100mを何歩で歩けるか、繰り返し練習すると役に立つ。成長に伴い歩数が変わりますので留意が必要です。

- ・ 坂道の歩測 【計測 1 7 P】

坂道を歩くときは必然的に歩幅が平地と比べ狭くなる。計算例が表に示されています。

- ・ 身体測定 【BSHB 1 2 7 P・計測 8 P】

歩測が困難な場合等に役立つ。これもスカウトの成長によって変わるので、学校の身体測定の結果を報告させる等の工夫が必要となります。

③ パトローリングのポジションと役割分担の例【B S H B 6 5 P～】

- ・ 先頭 前方の進路の発見
- ・ 右翼と左翼 左右の目標物の発見
- ・ しんがり 後続班との連絡やポイントの再確認
- ・ 班長 読図や各担当から報告を受ける
- ・ 助手 班長の横で歩測
 (数人で交代しながら行う。ただし歩幅を考慮する)
 班旗を掲げる
 タイムキーパー

④ 地図記号 【地図とコンパス表紙の裏見開き】 左右の状況を記入する際に地図記号を用います。 基本的な記号は覚えておきましょう。

⑤ 必要な道具 あれば便利な道具

- ・ 地図とシルバコンパス
説明省略

- ・ 2～3mの縄（ロープ）

ロープに印をつける等の工夫をし装備していると、小川の幅や立ち木の高さを容易に素早く計測できます。

- ・ 丈（長さが明確でまっすぐなもの）

斥候に丈を持たせ、その丈を目標に方位角を読むとずれにくい。

- ・ 画板

スケッチブックサイズの野帳をつけるのに必要になる。

A4サイズであればバインダーで対応可能です。

3. 野帳の作成方法

◆ 野帳を作成する前に . . .

準備するもの

- ・ 記録用紙(大きさは適宜。スケッチブックでも手帳でも可。)
- ・ 筆記用具
- ・ シルバコンパス
- ・ デジカメ(あれば尚良い)

◆ 野帳を作成しよう！

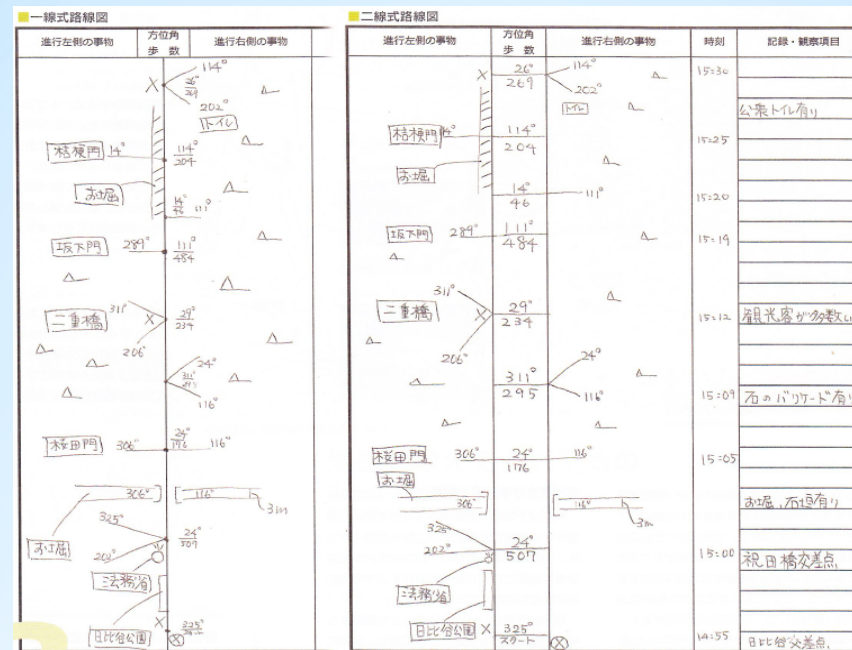
野帳の描き方には2種類あります。

今回は、二線式路線図の描き方について記載します。

二線式は一線式に比べ、以下の特徴があります。

- ・ 左右の観察事項の記入が煩雑にならない。
- ・ 道路状況の詳細を記入することができる。

例) 一線式路線図と二線式路線図



I. 野帳シートを作成しよう！

野帳シートに必要な項目は、以下の図を参考にしてください。

コース 記 録	方位角 歩 数	コース 記 録	時 刻	観 察 ・ 記 事
	出発点			

野帳は、通常の記録と違い、下から上に向かって記載します。

II. 実際に記載してみよう！

記載の方法は、いたって簡単です。

記載例

コース 記 録	方位角 歩 数	コース 記 録	時 刻	観 察 ・ 記 事
進行方向左側の状況を記載します。 左側に茶畑があることを示します。 左側に〇〇公園があることを示します。	分母を歩数、分子を方位角として記載します。 「前地点より、400歩進んだ分岐で方位角310°の方向へ進んだ」ことを示します。 「出発点より、57歩進んだ分岐で方位角30°の方向へ進んだ」ことを示します。 その分岐では、200°と320°の方向に道が分岐していることを左側に記載しています。 「出発点より、方位角320°の方向へ進んだ」ことを示します。 310° 400 30° 57 320° 出発点		10:10	コース記録に書けなかった観察項目を記載します。 通過時刻を記載します。

記載方法

- ① スタート地点から進行方向の方位角を読み、方位角を記録します。この場合真っ直ぐな道はほとんどありませんので、見通して進行方向が変わるポイントまでの方位角を記録します。
- ② 進行方向が変わるポイントまできたら、スタートからの歩数を記録します。メートルへの換算は最後に行います。続けて、次のポイントの方位角を記録します。
- ③ 方位角と歩数の記録は、分母を歩数、分子を方位角として記録します。またコース途中の観察や出来事時間も同時に記録して行きます。

記録した野帳をもとに、ハイキングルートの略地図を作成すれば、りっぱなハイキング報告書になります。

4. プログラムへの活用

平成28年度 静岡県連盟定型外訓練「野帳の活用」実施計画書									
隊長	団委員長	地区コミッショナー	地区委員長				作成者	岡田浩一	
							作成日	H27 12月30日	
期 日	平成28年 5月4日(水)								
会 場	太田山野営場								
雨天対応	少雨決行（大雨注意報・警報発令時は中止）								
目 的	2線式路線図の作成方法と、これを用いた地図の作成方法を理解する。								
目 標	ハイキングで2線式路線図を作成し、この路線図より地図を作成できる。								
参加人員	6～8名／班で実施する								
4日(水)	番号	担当	内 容				準 備 品 / 備 考		
9:30		丸山	実習の説明（歩測、コンパスの使い方、地図記号は既知）						
9:40	1	平野	【模擬ハイキング】6班構成で仮定				2線式路線図用紙（4枚／班）		
			・コースは20分程度の周回路で、路線図作成に10分						
		久原	とし、30分で帰着するものとする。				シルバコンパス（2個／班）		
		戸川	・追跡ハイクで行う				地図記号表（2枚／班）		
			・1班は6～8名で構成し、班長1名、前方確認1～2名、						
			左右確認2名、歩測担当2～3名とする						
			・正方向、逆方向で同時に2班が出発、後続は5分間隔で				追跡サイン（正逆で色分け）		
			遅れて出発する。						
			・1班は6～8名で構成し、前方確認2名、				＊周辺の安全に十分注意すること		
			・前方、左右確認担当は記入ポイントを班長に報告し、						
			目標物あるいは進行方向の方位角を測定し、歩数と共に						
			路線図に記入する。						
			・道幅や周囲環境も地図記号を用いて記入しておく。						
10:30			セッションルームに移動						
10:40	2	久原	【地図の作成】				記録紙（1枚／班）		
		戸川	模擬ハイキングで作成した路線図を元に、地図を作成する				50cmスケール（2本／班）		
			・歩数を距離に換算し、1/25000の地図とする						
			・地図記号を用いて、周囲の環境をわかりやすくすること						
11:30	3	平野	【発表】						
			・作成した2線式路線図と地図をホワイトボードに貼り、						
			特に難しいと思った点を発表してもらう。						
11:55		丸山	【講評】						

5月に実施された県連定型外訓練で2グループで「野帳」を実際に作成した。
作成した「野帳」から地図を作成しグループ発表を行った。

（参加者の声）

- ・奉仕部門では地図やコンパスを使用した活動をやらないのでとても興味があった。
- ・実際に体験してグループでの役割分担と協力がとても重要なことだと理解した。
- ・パトローリングを有効に活用できるプログラムであることを理解できた。
- ・ぜひ原隊のプログラムに取り入れて実施したい。
- ・コンパスの使い方がよく分かった。

5. スカウトの成長

野帳の作成は、現地の状況を記録し報告書を作成する時の資料とすることだけでなく、その地域の暮らしや美しい自然などを実際に自分の足で歩き、目で見て体験することができるようになります。また作成にあたってはスカウト自身が基本となるスキルについて習得していることが前提条件となります。本文で紹介した、コンパスワークの技能はもとより、歩測等の計測技能、また作成時には地図の読図技能(地図記号等)を習得し、活用することにより正確な野帳の作成、そこからより正確な略地図の作成につなげることが可能となります。

野帳作成については、その情報量の多さからとても一人で作成しきれるものでもありませんし、本来の目的を外れ、野帳作成のためだけの活動になってしまう恐れもあります。そこで班制度を活用し、パトローリングを取り入れ役割分担をし、班員が一丸となり、リーダーシップ・メンバーシップを発揮し作成していくことが重要です。班会議、班集会で十分にトレーニングをし、有意義な隊集会等の活動のベースとなる様考慮したプログラムの作成・展開が必要となります。

事前に訓練された班による野帳作成を組み込んだハイキング等のプログラムは、7つの教育法が十分に考慮された素晴らしい活動になります。

6. 班長へのアドバイス

いきなり長い距離に挑むと大変なので、最初は短い距離から始めよう。
何回か実施して慣れてきたら距離を長くして行こう。

野帳をつけるとき、班の誰が野帳を記入するかという問題がある。
班長は全体を管理し、ペースや進路、安全へ配慮しなければならないので、野帳の記入には適さない。

パトローリングで進むので次長は先頭に立つし、かといって記録係に単純に記入してもらうわけにはいかない。

やはりある程度ハイキングの経験を積んだ3番手スカウトが適任だろう。経験の浅いスカウトには事前に歩測をしっかり練習させて、ひたすら歩測を行うという単純な役割を与えるのも良いかもしれない。

班集会でコンパスの使い方や歩測を教えるのも班長の仕事だ。

いずれにしても「班員一人ひとりが役割を持ち、それを全力で務める」ことが大切なんだ。

野帳の作成は班全員のチームワークが発揮できるプログラムさ。
チームワークで「ルート上の何も見逃さない」という完ぺきな野帳をめざそう。